

帰国子女・バイリンガル教育 (英語補習校) プログラム — 第6期秋季講座 (中学生および高校生クラス) の内容紹介 (3) —

ABCD 学院 学院長 千葉紘一

日本で最初の帰国子女のための英語補習校であるABCD学院での教育について報告します。
中学生・高校生対象の実際に行われた帰国子女プログラムの具体的に紹介の最終回です。

5. 成果

5.1 一中学生の特性と進歩の状況 (表-3参照)

本プログラムの成果として具体例を示します。即ち、一生徒を取り上げ、如何に進歩していったかを、プレゼンテーションを中心に時系列的に概要を紹介いたします。この生徒は小学校4年生の時1年少々アメリカの現地校で勉強していました。いわゆる帰国子女という定義からは少し短期でしたので、始めはプレゼンも上手とは言えませんでした。学院でのその後の経過を表-3と以下にまとめています。この表から大よそ進歩が見えることと思えます。従って彼女こそ ABCD 学院で英語力を育てたと言えそうです。

- (1) 彼女はどちらかと言えばサイエンスが苦手でしたが、それを克服すべく、サイエンスを取り上げました。サイエンスと言っても、バイオ、環境問題、水のサイクル宇宙、惑星、ブラックホールやエネルギー問題と、実に多彩で、生徒の興味の広がりが見えます。
- (2) 初めは事実関係の発表が中心でしたが、後半は“なぜ?”を考へながらの発表となっていました。質問にも答える準備等を行ない、発表態度も徐々に堂々と自信に満ちて、聞いて安心できるようになりました。
- (3) 最近では、中間発表で取り上げるトピックスは自由であるため、身近なりサイクル活動やラジオの有効利用といった日常生活で実行していることなどを発表していました。このユニークさは誰も真似できないものです。

なお、父兄からの感謝のメールを頂いたので紹介します。

『千葉先生 こんにちは。ご無沙汰しております。皆様お元気でしょうか? Y が長い間お世話になりました。おかげさまで Y の高校受験が無事に済み英語が難しいとされる国際基督教大高校、桐蔭、成城学園および都立西高校へ全て合格いたしました。(本人はどれにしようかとすごく悩んだ末、国際基督教大高校にしました)。

これも小学校の時わずか1年しか米国にいなかったのですが、ABCD 学院へ頑張って通ったおかげで英語が向上できたおかげだと思います。日本に居ながら英語力が向上できたのも千葉先生をはじめ、ほぼマンツーマンでの優秀な先生方のご指導を受けることができたおかげと心より感謝しております。クラブ活動との両立で難しい時期もありましたが、なんとか通うことができて良かったと思います。同時期に米国へ行った子供が英語を忘れてしまうのをとてももったいないと思います。素晴らしい先生とプログラムから、成長期に受けた影響もまた(環境問題への関心など)うれしく、ABCD 学院の質の高いプログラムがもっと知られてもらえればと願っております。

高校はもっと忙しくなるので ABCD 学院へは通うことができませんが、またご縁があるかなと思います。では、ありがとうございました。(先生へきちっとご挨拶ができませんでしたので、宜しくお伝え下さいませ。) また、奥様へも宜しくお伝えください。』(Y の母)

5.2 一高校生の特性と進歩の状況 (表-4参照)

J 君は 0 ~ 6 歳まではアメリカ、その後 7 ~ 12 歳までは日本、13 ~ 15 歳まではオランダに滞在し、外国にいた合計 9 年間は現地校に通っていましたが、完全に帰国子女と言えますが、幸い

に 7 ~ 12 歳の間日本に居たため、日本語も十分できますので、バイリンガルの生徒です。また、サイエンスが好きである一方、社会科、特に歴史は嫌いで、表4に見られる通り、中間のプレゼンは好きなサイエンスのトピックスでしたが、学期末のトピックスは皮肉にも歴史が多く入っていました。それでも幾度かプレゼンを行う過程で、歴史の勉強も徐々に好きになっていきました。最近では、高校ではあまり取り上げない第二次世界大戦以降の問題に取り組んでいます。

J 君及び彼のご両親にアンケートを取った際、以下のようなコメントを頂いています。(以下抜粋)

質問: 当講座を受講されたことで、生徒の英語への取り組み、または学校での授業への取り組み方に変化は感じられますか?

< J 君ご両親 >

『日本で、現地での授業と同じような英語のレッスンを受けることが如何に大変なことか実感できたようです。危機感から英語の本を読み続けています。』

質問: 授業を受講されたご意見・ご感想及びご要望など、どんなことでも結構ですのご記入下さい。

< J 君ご両親 >

『通常の英会話学校と違う、このような英語学校の存在に驚き、同時に大変感謝しております。また、早大夏季セミナーでのプレゼンも大変貴重な体験となったようです。どうもありがとうございます。秋季はサイエンスが特定科目となるように息子は得意分野なので今から興味津々の様子です。』

< J 君 >

『海外の学校のように授業を受けることができるとてもよかったです。』

6. 全体のまとめ

これまでご紹介した当学院のグローバル教育を総括しまとめたいと思います。生徒がどの様に成長したか、また、目標に対しての達成度が評価だと考えます。

- 以下の評価項目で中学生ではそれ以上高校生並と言えますし、高校生は大学生顔負けであると言えます。(早稲田大学の学生がそのように感想を述べてくれました。)

- (1) 自己学習能力:
- (2) プレゼンテーション能力:
- (3) ディスカッション能力:
- (4) リーダーシップ能力:

- 生徒の将来と期待: 生徒の一部には、将来米国の大学へ留学を目指している者もいます。

特に米国は語学だけでなくクリティカルシンキングを重視していますので、学院で受けた教育は大いに役立つことでしょう。また社会に出てからも問題を自分で処理でき、解決困難な問題へもチャレンジし、グローバル社会で活躍してくれるであろうと期待しています。同時に、日本人も決してプレゼンやディスカッションができないわけでないことを示しています。要は教育しだいであることを示していると思います。将来ある若き日本人にも自信を与えてくれることを期待します。

以上

プレゼンテーション実施例に見る成長過程の紹介



- プレゼンテーション授業の目的:
本講座は帰国子女を対象に、“英語力保持と向上”と“考える力”の向上を図ることを目的としています。これを実現する為には、単に、情報伝達の授業でなく、得られた情報を整理し、まとめ発表すること(プレゼンテーション)が重要となります。
- プレゼンテーション授業の進め方:
中間時(学期の中間): 自分の興味あるテーマを自分で選び、自作自演する。
最終時(学期の最後): 講師が与えたテーマを自分で調べ、まとめ発表する。(これは生徒の興味を広げるためです。)

表-3

生徒データ			
生徒名:	Y. T. (女子)		
海外滞在期間:	8才 ~ 10才春まで、約2年間アメリカ在住		
本講座受講履歴:	小学6年春 ~ 中学3年秋まで		

学年	年月	トピックス	概要
小学6年(12才) 第3期 秋季講座	2004年 12月 6日	Sailing Equipments in Columbus ages History of Spain at that time	・コロンブスの初めての渡航について ・コロンブスの渡航の方法、内容について ・コロンブスの渡航の結果について
中学1年(12才) 第4期 春季講座	7月 10日	History of Modern Olympics	・五輪の意味 ・オリンピックの歴史 ・日本のオリンピック参加とメダリストについて
第4期 秋季講座	12月 18日	Water Cycle on the Ground and in the Space Station & Global Warming	・水をISSに運搬する費用の高さ→リサイクルの必要性 ・リサイクルの方法 ・温暖化の効果(氷が溶ける) ・温暖化を食い止める方法
冬季講座 中学1年(13才)	2005年 3月 25日	American History "Lewis & Clark Expedition"	・LewisとClarkの紹介、知り合った過程 ・Expeditionの理由、経過 ・Native Americanとコミュニケーションを取る方法
中学2年(13才) 第5期(13才)	5月 28日	The Radio Programs	・ラジオを聞くのが好きな理由とラジオの魅力について 1) 深夜自分の好きなポップ音楽と歌手の歌が聴ける。 2) 他(勉強等)の事をしながら聴けること。
	7月 9日	Life Cycle of Butterflies	・蝶とは何か(体の構造・寿命) ・蝶の一生(卵→幼虫→さなぎ→成虫) ・蝶の種類数
中学2年(13才) 秋季講座(14才)	10月 15日	How to save money by recycling	・環境保護と生活の知恵と言えるリサイクリング技術の紹介 1) 風呂のお湯は洗濯に、食器洗はクレンザーでなく石鹸を 2) 床磨きにはオレンジの皮を使う、ガラス磨きには新聞紙を
	12月 10日	Higuchi Ichiyo	・樋口一葉の生い立ち ・樋口作品の特色 ・当時の女性の社会的地位に与えた影響
中学2年(14才) 冬季講座	2006年 2月 18日	Black Holes Advantages &	・ブラックホールがどのようにして作られるか ・吸い込むことができる範囲 ・数種のエネルギーの長所・短所を説明
	3月 25日	Disadvantages of Energy	1) 化石燃料の利点と排ガス等の問題点 2) 原子力発電の利点と問題点 3) その他、自然エネルギー(バイオマス、風力等)について
中学3年(14才) 第6期 春季講座	6月 10日	Cram school (塾と学校の比較)	・塾「Cram school」の意味 ・2タイプの紹介となぜ塾に行くのか ・塾ではどのようなことが学べるのか ・学校の良さとの比較
	7月 15日	Why did the revolutionary war happen?	イギリスから独立した主な理由を2つ挙げ、説明 ・紅茶、砂糖、紙など、日用品への高額な税金に反発 ・次第に、本国との文化、価値観の違いが出てきた。 結果として、独立を望み戦争となった。
中学3年(14才) 第6期 秋季講座	10月	Life on Mars	火星に生物はいるのかどうか、論や証拠を紹介(水が存在していた事など)
	12月	Comparison of Earth, Mars, and Venus	大気構成や水などの観点から地球、火星、金星を比較。



表-4

生徒データ			
生徒名:	J. T. (男子)		
海外滞在期間:	0才 ~ 6才: アメリカ在、7 ~ 12才: 日本、13 ~ 14才: オランダ、15才 ~ 現在: 日本		
本講座受講履歴:	高校1年春 ~ 2年春まで		

学年	年月	トピックス	概要
高校1年(15才)	2006年 6月	Code	暗号の中から一種類(alphabetic cipher)を取り上げ、成り立ちや解析方法を紹介
第6期 春季講座	2006年 7月	Native Americans before and after the Revolutionary War	独立戦争におけるネイティブアメリカンの立場と戦後の問題
高校1年(15才) 第6期 秋季講座	2006年 10月	Atmosphere of planets	金星、地球、土星の大気構成要素とその構成になった歴史
	2006年 12月	Magnetic field on the Earth	地球の磁場の役割とその影響について
高校1年(16才)	2007年 2月	Geothermal Energy	地熱発電の仕組みとそのシステムの妥当性について
第6期 冬季講座	2007年 3月	Japanese history late in 19C	吉田松陰の生涯と彼の与えた影響、松下村塾について
高校2年(16才)	2007年 5月	Dark matters	宇宙に存在する未知の物質である『ダークマター』について
第7期 春季講座	2007年 7月	Palestinian problem	現在紛争の続く、パレスチナとイスラエルの問題について、その経緯と解決の見通しについて述べた。

ABCD 学院

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-12
TEL:03-5365-1341 FAX:03-5365-1340
<http://www.abcdco.jp/>



ABCD 学院の英語補習校プログラムの中学・高校生対象クラス紹介の3回目、最終回です。

今回の報告だけを見ても、しっかりしたカリキュラムに基づいた「グローバル社会で活躍してくれる」若者の教育を目指しているのが分かります。千葉学院長の情熱が伝わってきます。報告に感謝します。